

平成27年度 第1回ミニフォーラム 意見交換議事録

Q. 作業費が無料では依頼する側も恐縮してしまい、逆に頼みづらくなることはないか？

A. 特にそういった声は聞かない。また、有料にするとしてもお助けたい活動に対する「適切な対価」というのは人によって考え方が異なるため、設定がむずかしい。

Q. メンバーの高齢化が進んでいくなかで、どのように今後メンバーを確保していく予定か？

A. とにかく、若い世代にメンバー募集の声をかけていくより他に手はない。なお、80歳のメンバーでも実際にやれる仕事はたくさんあり、例えば、剪定の指示を出してもらっただけでも作業がはかどる。お助けたい活動に年齢は関係ないと考えている。

Q. メンバー募集の方法は？

A. 連区および町内の広報紙を活用している。または、特定の個人に直接声をかけている。

Q. 活動内容が大変等の理由により、メンバーが減っていくことはあるか？

A. 脱退の理由は、加齢により体が動かなくなったからといった内容のものが多い。

Q. お助けたいメンバーの男女構成比は？

A. メンバー全体のうち1/3ほどが女性である。力仕事や高所の作業はおもに男性に担ってもらい、女性には、刈った草の収集や掃除などきめ細かな部分を担当してもらうことが多い。

Q. 今までで一番材料費が高額になったのはどんなケースか？

A. ふすまを全て貼り替えた際の、紙代が高かった。また、花壇づくりでも高額になったケースがあった。

Q. お助けたいとして、買い物代行を頼まれる事例はどれくらいあるか？

A. お助けたいとして買い物代行を依頼されたことはない。

Q. 今までに事故が発生したことはあるか？

A. 高所作業中に脚立から足を踏み外した事例が1件、毒グモにかまれた事例が1件。それ以外は特に報告されていない。

Q. 地域の同業者（電気屋、庭師等）との不和、クレーム等はないか？

A. 今までに一度もない。報酬をもらっていたら民業圧迫になっているかもしれないが、無料であるためそのようなトラブルは起こっていない。

Q. 依頼されたものの、対応に困ったり、対応できなかつたりすることはあるか？

A. 私たちはプロではないので、業者の仕事（屋根の葺き替え、松の剪定等）は対応しない。対応できないことは断る。

Q. 依頼者からのクレームはあるか？

A. 特にない。無料であることもさることながら、同じ町内で顔がみえる関係性だからこそクレームもないのかもしれない。

Q. 作業中の事故や器物を破損したときの保険は？

A. 瀬戸市市民活動災害補償制度を活用している。

Q. 依頼主とのトラブル（物が紛失した等の言いがかり）はあるか？

A. 特にない。そのようなトラブルを避けるためにも二人以上で必ず活動するようにしている。

Q. 「西陵お助けたい」が成功の要因として掲げた、「町内単位」での取り組みは、他連区でもあてはまると思うか？

A. すべての連区で「町内単位」での取り組みが有効であるとは思わない。西陵としては、隣近所の顔が見え、信頼関係がすでに構築されている町内という単位で活動したほうが、依頼する側にとっても、依頼される側にとっても都合がよいであろうと判断した。

Q. 予算はどこから出ているのか？

A. 地域力の補助金を用いて活動している。ただし、それだけでは、道具や機材を買うことができないため、各々の自治会（町内会）から予算をもらっているところもある。

Q. お助けたい活動にまだ取り組んでいない町内が西陵の中にもあると思うが、なぜ設立されないと思うか？

A. 現在、まだ取り組んでいない地域については、町内会長を通して設立を依頼中。設立されない理由は、それぞれの町内で事情が異なるため一様には語れない。また、お助けたいは、あくまでも同じ町内に住んでいる人からの依頼のみを受け、他の町内からの依頼は断っている。未設立の町内でニーズが高まれば、次第にお助けたい結成を望む声が大きくなると信じている。

Q. 樹木の伐採後の処分方法と処分費は？

A. 週2回のごみ収集で十分処分できるため、特に特別な費用は必要ない。

Q. 私たちの地域ではお助けたいの設立にむけて現在準備中である。私たちの地域の場合、西陵に比べて家も大きく農地も広いため、活動規定づくりに現在頭を悩ませている。西陵ではどのような点に留意して活動規定を作ったか？

A. 一番留意したのは、禁止事項である。それ以外の点については、西陵のものを参考に作成していただけると良いのでは。活動規定は公開しますのでご活用ください。

(地域力ホームページに公開済みです)

地域力推進協議会副座長 安藤氏コメント

お助けたい設立から活動開始までのノウハウはすべてご厚意により公開していただけるので、ぜひ活用してほしい。また、どの地域でもワークショップを開催すると「お助けたい」のような活動をしたいという話が必ず出るが、実際にはなかなか動き出せない地域が多い。そのようななかで、西陵が成功している要因は「無理はせず、自分たちのできる範囲で活動する」という点ではないだろうか。